

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要

建物名称	新潟市立 中之口中学校	
建設地	西蒲区 中之口 660	
用途地域	指定なし	
建物用途	学校, 工場,	
竣工年	2014年10月 予定	
敷地面積	22,884.00 m ²	
建築面積	4,256.12 m ²	
延床面積	6,211.28 m ²	
階数	地上2F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2013年5月10日	

2. CASBEE新潟の評価結果

 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{69}{27} = 2.5$
---	---	--

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.6		バリアフリー	3.0
			維持管理	4.0
			更新性	3.8
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.6		耐震・免震	3.8
			信頼性	3.4
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.3		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	4.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	4.0		生物環境の保全・創出	4.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	5.0		まちなみ・景観への配慮	5.0
			地域性への配慮, 快適性の向上	5.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

1.長寿命化: 階の高さを可能な限り高く設定し、将来の設備更新等に配慮した。2.校舎及び体育館の構造に重要度係数1.25を設定し、構造計画を行った。3.グラウンドや通路の舗装等は透水性のある舗装として計画した。4.太陽光発電を設置し、開口部には庇(ライトシェルフ兼用)を検討しつつ、開口部はその大半を複層ガラスとし、西面には夏型LOW-Eガラスを計画した。5.節水型便器の設置や、地場産木材の多利用等に配慮した計画としている。6.校地内の樹木はなるべく既存のままの計画で、記念樹は移植を計画している。7.冬季の生徒通学時で利用する一時的な駐車場やグラウンドでの地域の運動会、練習試合などでも利用する駐車場の位置については、歩車道分離を基本とし、利用しやすい位置の計画としている。

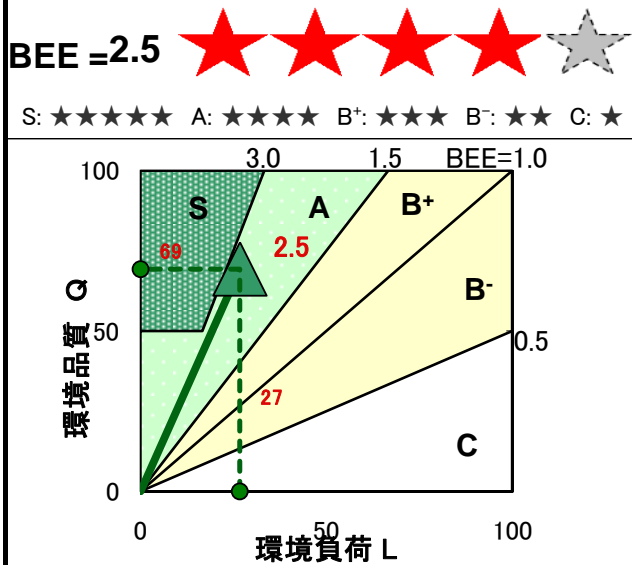
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

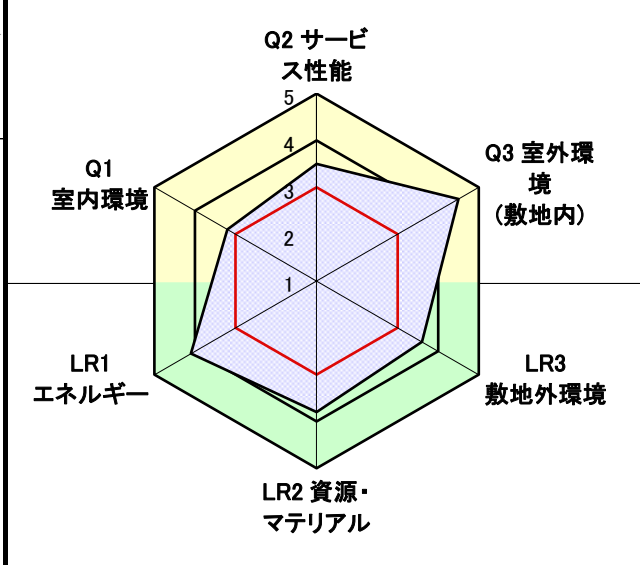
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

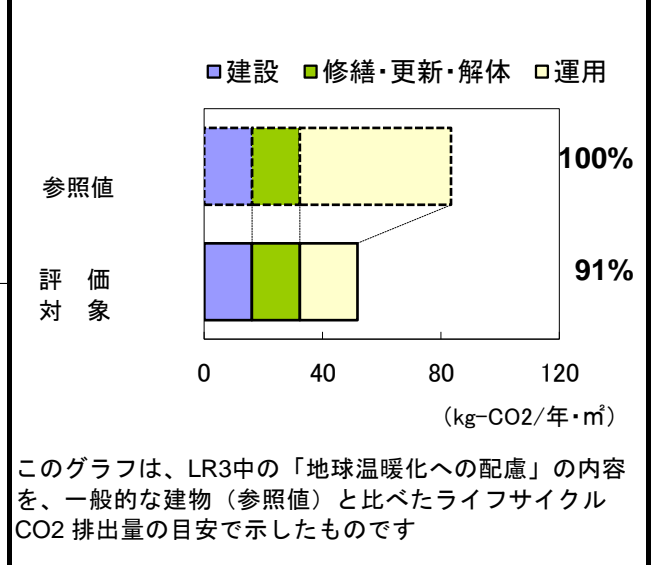
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



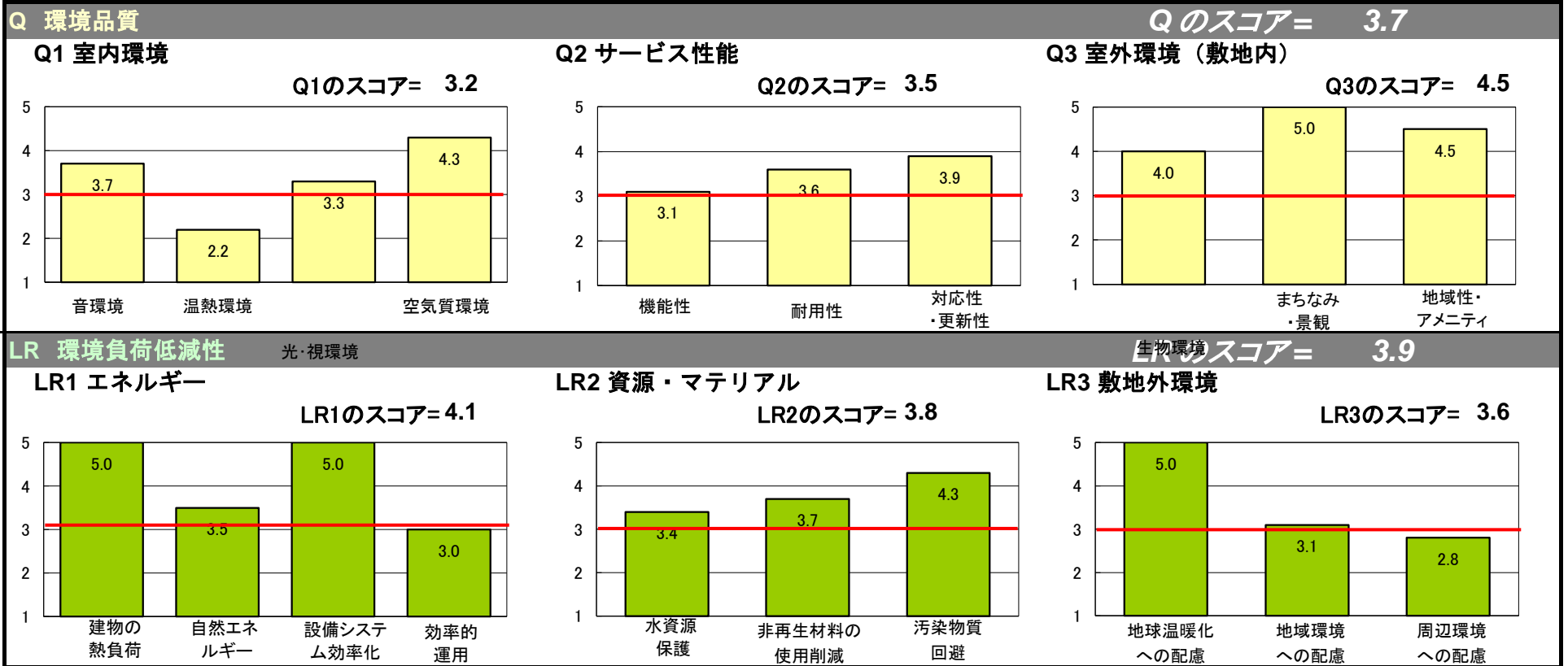
2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>中学校の現在の冷暖房の設備方式を変えずに、建築的手法でどこまで環境設計の配慮が可能かを本計画では試みた。断熱性能、遮音性能、景観等に配慮した。特にピロティ部分の上階床は、逆スラブ構造とし、鋼製の置き床パネルを用い床冷えの低減に配慮した。</p>	<p>本事業においては、生徒通学が自転車利用であり、駐輪場を建物に組み込むことで、生徒玄関へ直接移動ができる計画であり、冬季には送り迎えの一時駐車は生徒の安全や周辺道路の渋滞が生じにくいように配慮した位置・</p>
<p>Q1 室内環境 敷地に接する道路からの音に対し、教室棟の外部開口部はT-2タイプのアルミサッシュと3+6A+4の複層ガラスで配慮を行っている。また、冬季内の部活動の場として利用できる空間を考慮するとともに、屋内体育館の床のよ</p>	<p>Q2 サービス性能 長寿命化の取り組みとして、エレベータの設置・多目的トイレの設置・無段差の玄関の設置や3.9~3.85mの階高さを設定しているが、将来の設備更新等で天井懐に余裕ができるように、天井高さは2.8mに押さえている。外部に</p>
<p>LR1 エネルギー 建物の断熱化や、開口部の断熱遮熱化に最大配慮を行った。太陽光発電(蓄電池つき)や、災害時に対応できる屋上受水槽を計画した。避難所となる体育館や夜間利用が想定される教務室などは網戸を設置し通風に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 学校という施設面での使用材料には有害物質を含まない材料を注意深く選定し、同時に木質材料を校舎内に多く利用している。また、節水型便器の設置・自動水栓の設置・センサー照明などの計画としている。</p>
<p>Q3 室外環境 (敷地内) 本改築事業は、グラウンド側への校舎の立て替え事業で、既存の校舎周辺の樹木が今後のグラウンドとなる場所に重なるため、一部の既存樹木(記念樹)を「先人の庭」と称する位置に移植する計画とした。(支障となら</p>	<p>LR3 敷地外環境 敷地の建ベイ部分とグラウンド部分を除けば、緑化に努めた。また、建物を2階建てとし、隣接する田畑への日影の影響を考慮した計画とした。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される